

人口	77,377	(+19)
前月比		
男	37,129	
女	40,248	
世帯数	20,169	(+8)

おおだて

10月号 (No. 183)

編集と発行 — 大館市役所

(電話) 2-1212

発行年月日 — 昭和47年10月1日

発行日 — 毎月 1 日

広報紙は、行政協力員を通じて全世帯に配布しています。届かなかったり、配布が遅いときは、総務課庶務係へご連絡ください

昭和43年3月1日第3種郵便物認可 (1部5円)

老人をいたわろう

医療水準の向上や食生活の改善によつて日本人の寿命がのび、3年後の昭和50年には男72・5歳、女75・8歳にまで伸びるだろうと推定され「人生50年」ということも昔日のことばになつてしまつた。

長寿は大いに喜ぶべきことで、だれでもが長寿を願わぬ人はいないだろう。ところが、寿命ののびによる老人社会の到来によつて、老人問題が深刻化していることは、一体どうしたことだろう。

家族ともども楽しい老後を送っている老人も多い反面、最近では、わが子に見捨てられさびしく暮している老人が増えつつあるという。このような問題の背後には

- ◆家族制度の崩壊による家庭での地位の低下
- ◆核家族化で強えられる孤独な生活
- ◆病氣への恐怖
- ◆経済的な保障のないこと

などの原因があげられるかと思われまふ。すなわち現代の老人は、幸、不幸にかかわらず、このような現状下の中で悩みつづけて生きていかねばならないようです。

若い人たちは、こうした老人たちの悩みをまず理解しなければならぬ。そして、私たちが現在あることの意義と老人たちはだれよりその知識と経験が豊かな人たちであるということ再認識するならば、自づから、老人に対するいたわりの気持ちが沸くのではないでしょう。

長寿を祝い、しあわせを祈るのは、老人の日(9月15日)だけであつてはならない。老人へのいたわりは常に持ちつづけていくならば、しあわせな老人も多くなると思ひます。

そして、老人の皆さん、働ける人はいつまでも働け、病床にある人は変わりゆく社会に目を向けていくなら、老いゆくことも忘れるのではないのでしょうか……

ところで、市の老人対策はどうかというと必ずしも満足していただけるようなものではないと思ひますが、施設面では雪沢に老人福祉センター、大滝に老人ホームを設置している。

そして、老人クラブへの補助、老人祝金、老人医療費の支給、さらに、ひとり暮らしの老人を世話するホームヘルパーは、老人たちから悩みごとなどの相談に応ずるなど、市としても少なからず老人問題に対しては力をそそいでいるところである。

長い間郷土の発展につくされた老人たちに対しては今後もいたわりの気持ちを持ちつづけて老人問題に積極的にとりくんでいく方針です

老人の日(9月15日)、石川市長の最高令者の訪問は恒例になった。今年、東台の長井チエさん(93歳、明治11年12月2日生れ)を訪れ、まず、チエさんの元気な対応にびっくり。「もっと、もっと長生きして下さい」という市長の激励のこぼれにチエさんもニコリ、本当にめでたいですネ



老人福祉のための予算

(47年度)

◎ 老人福祉費	3,951万3,000円
老人クラブ連合会補助	13万円
老人クラブ補助	202万円
他市老人ホーム入所扶助費	1,570万円
老人医療費支給	1,900万円
老人白内障医療扶助	25万円
老人家庭毒仕員報酬	44万円
老人健康診査	35万円
老人電話費	7万円
その他	155万円
◎ 社会福祉費	408万6,000円
各地区の敬老会費用	358万円
高令者への税金	51万円
◎ 養護老人ホーム事務費	901万円
◎ " " 生活費	812万円
◎ " " 増築費	2,205万円